



矢上高校だより

VOL. 39 2008. 8. 26 発行

特集

夏の「生徒奮戦記」Ⅱ

この夏の生徒の頑張りの紹介、前号の続編です。

今回は、主に「産業技術科」の生徒の活躍を中心にお伝えします。

日本学校農業クラブ連盟（国内の農業系の学習をする高校で昭和23年に発足。「指導性」「社会性」「科学性」を教育の目標にしています。農業クラブは文部科学省の、学習指導要領に定められています。）のいろいろな活動の内、2つの活動を紹介します。

この2つの活動は本校の生徒が島根県代表として中国大会へ出場しました、その1つは、意見発表です。植田あかねさんが出場した「環境」部門の発表原稿を紹介します。

もう1つは、「文化・生活」部門のプロジェクト発表で出場した佐々岡素子さん、椿純一君、泉原 理さんです。その想いを、泉原さんに表現していただきました。

《環境》「農業を学ぶ私にできること」

植田あかね（2年生）

皆さん、目を閉じて想像してみてください。

ギラギラと照りつける太陽、そしてアスファルトの先に立ち上る陽炎、夕方になっても鳴きやまず、暑さを助長するセミの声 … 考えただけで額から汗がにじみ出てきそうです。

夏がやってきました。

「去年よりも暑いよね。」

「この暑さいつまで続くんだろう。」

という声を毎年のように聞き続け、今年もこの言葉が例外なく、ピッタリと当てはまる暑い夏となりました。



中国大会で発表を終えた直後の植田さん

私が小さかった頃は、寝やすかった夏の夜も、今はとて

も寝苦しく、クーラーをつけないと寝つけないほどです。

こんな異常な暑さが続く地球には、今どんなことが起きているのでしょうか。

先日見たテレビのニュースでは、地球温暖化による気温の上昇に伴い、解けていく氷の影響から、そこに住む白クマが絶滅寸前であると報じていました。それを見て、私は大きなショックを受けると同時に、一刻も早く動物たちが住める環境を返してあげたいと強く思いました。

私の通っている矢上高校は、中国山地の山あいの町、邑南町にあります。近くに高速道路の瑞穂インターチェンジがあり、交通の便は発達していますが、まだまだ周囲を山々に囲まれた自然の豊かなところです。

矢上高校産業技術科では、一年生のとき、農業科学基礎の授業で稲作実習を行ないます。800㎡ほどの実習田に一年生全員が入り、田植えや除草、稲刈りといった作業を、すべて機械を使わず手作業で行ないます。今どき機械を使わないなんておかしいと皆さんは思うかもしれませんが、私もそう思いました。そして、田植えのとき、水田を見てまたビックリです。驚いたのは、ヒルの存在です。先輩から聞いてはいたものの、まさかと思いました。吸血動物であるヒルは、それ自体には毒性はないといわれていますが、その姿かたちや、吸いついたらなかなか離れないこと、そしてぬめぬめした外見は、どうしても受け入れがたく、ミミズのように水田を這うその姿を発見した時、気持ちが悪く、田植えをする気力が一気に失せてしまいました。けれども、水田に入らないと何もかも進まないの、意を決してみんなで足をつけましたが、案の定、ヒルはすぐに私たちの足にくっついてきて、血を吸い始めました。苗を植えたくても、ヒルに意識がいき、目でヒルの行動を追い、不覚にも吸いつかれたら、すぐにヒルを捕っては投げ、の繰り返しで、田植えはなかなか進みませんでした。

私たちの実習田は、農薬の使用を極力おさえているため、ヒル以外にも生き物がたくさんいました。生き物と格闘しながらも何とか無事に植え終わることのできた苗は、その後順調に育ち、秋には再び私たちの手で文字通り刈り取られました。

このような土地で育てられたお米は、矢上高校の収穫祭である産業祭で生徒に振舞われます。また、残りについては、校内販売をしましたが、広島県出身の先生から、

「両親が、矢高の米はおいしいから、また買ってきてくれ。」

といわれたので買わせて欲しい、と言ってもらい、ほとんどその先生が買って帰られました。

自然を大切に、そして自然を活かした農業、そこで生産される農産物の素晴らしさを実感した一瞬でした。

農業は、降水量の多い日本において、水田や森林のもつ貯水能力により、国土保全機能があり、また、作物や森林のもつ浄化作用などの環境保全機能、さらには自然景観の維持、気象緩和、野生動物の保護などの機能を有します。

しかしながら、近頃は、農業も農薬散布による生態系への影響の問題や、耕地からの窒素・リンの流出による河川等の富栄養化や地下水汚染などがいわれるようになりました。

これら日本農業の問題点と、地球温暖化などの環境問題、食品の安全への関心の高まりなどの社会問題とを踏まえて、環境を守る農業・環境にやさしい農業への取り組みが各地域でなされています。

私は、誰もが行なえる環境にやさしい取り組み、たとえば節電や、使えるもののリサイクルなどとは違い、農業を学ぶ私たちが、農業を通して地球のために実践できることは何かを考えたいと思っています。そのため私は、高校での一年間の経験を踏まえ、この夏、先進地研修として、長野県での高冷地野菜の栽培についての研修を決意しました。環境にやさしい農業、環境を守る農業の実践こそが地球温暖化をはじめとする環境破壊から地球を救えるのではないのでしょうか。

農業を学ぶ私たちだからこそできる温暖化対策、絶滅寸前の白クマを救う第一歩、それをこれからの高校生活のなかで見つけるために、様々な事に挑戦していきたいと思います。

皆さん、目を閉じて想像してみてください。

木洩れ日のさす農村の景観、山々に貯水された雨水が少しずつ流れ出てくる水音、夕方のそよ風になびく水田や畑の作物たち…

以上で発表を終わります。

《生活・文化》プロジェクト研究をとおして 泉 理 (3年生)

私は高校生活の二年間、福田先生の下で、サツマイモの研究をしてきました。

今までやってきたことの実績もあって、見事県大会で最優秀をいただき中国大会へ出場する事が決まりました。中国大会は県大会の約一ヶ月後にあり、山口県の柳井市で開催されました。県大会のときとはまるで違った雰囲気の中で発表をしました。

中国大会の日は、昨年と同様8月8日でした。この日は福田先生の誕生日でした。昨年の中国大会のような悔しい想いはしなくなかったし、今年こそは福田先生に誕生プレゼントとして全国大会に出場したいと思っていました。結果は全国大会出場ならず……。他校の名前が

呼ばれたときは言葉が出ませんでした。「先生、ごめんなさい。」と福田先生にしゃべりかけたときには涙がとまりませんでした。けれど、自分たちのやってきたことは、ちゃんと発表できたと思っています。それに、はじめて一度も噛まずに発表ができました。私たちの心の中に『後悔』という文字はありませんでした。むしろ、発表を終えたあとの私達には『自信』という想いが共通してありました。だからこそ、他校が呼ばれたときの悔しさは大きかったと思います。悔しさは、自分たちに自信があるから一生懸命にやってきたからこそ、湧き上がる感情だと校長先生が言っておられました。

私は高校一年生の時に福田先生に「一緒にサツマイモの研究をしてみんか？」と誘われたのが農業クラブの研究班活動に入ったきっかけでした。一人で入るには不安があったので、佐々岡さんと椿君を誘ってこの活動を始めました。

私はパソコンをいじるのが苦手と言うこともあり、読み手を自ら立候補しました。そして佐々岡さんと椿君がパソコンとレーザーポインターの担当となりました。大変なことに私達三人ともバドミントン部を主としていたので他校の農業クラブの研究班活動と比べると日頃の活動は時間的に少ないと思います。そんな状態の中で福田先生は私達に発表の場をつくってくださったり、農家や町内の小学校、福祉施設、企業などとの交流の場を設けてくださいました。人と話したりするのが苦手な私にとって、とてもいい経験になりました。

活動内容として、年に一度瑞穂の元気館で食育フェアがあり、そこで焼き芋の販売をしました。二年めの食育フェアの時には、ゼオライト焼き芋の評判が広まっていたこともあり行列ができる程でした。その時私達のやってきたことにやりがいを持つことができました。

石見銀山での焼き芋アイスクリームの販売体験では、炎天下の中、声を張り上げてお客さんの興味を引こうと頑張りました。私達が高校生ということもあってか、足をとめてくれた方の方が多かったとおもいます。しかし、高校生ながら販売の難しさを知りました。

特に日和の「芋ねえちゃん祭り」では、県外から芋の苗植え、収穫と土に触れる機会をつくる活動を役場の方達と一緒に作業をしました。なかなか県外の方と一緒に作業をするということがないので、沢山の方と交わり多くのご意見が聞けて良かったと思いました。

役場の方たちには、大会の前に発表を聞いていただきました。中には、厳しい言葉や励ましの言葉もありました。

これまでにサツマイモを通して、沢山の方と関わりを持ち、交渉をしてきました。サツマイモを通じて、これから先に関わることの無いような人とも知りあうことができました。その機会をつくって頂いた福田先生にはと

でも感謝しています。

福田先生はとても接しやすい先生で、ちょっとしたことでも私達を褒めてくれました。「おめえたち天才だずー」この言葉が私達に自信をくれたと思いました。小難しいことを言う私達には、「おめえたちアホにならにゃいかんよ。わしみたいにお。誰もついてきませんよー」お調子者のように聞こえる福田先生の言葉には、私達のこれからの人生にとっても役立つことばかりでした。こんな福田先生とも言い合いを何度もしました。先生以外にも仲間達と口論をしました。発表原稿は大会ギリギリまで修正を繰り返しました。色々な人に聞けば聞くほど修正箇所は増え、私達は夏の暑さに負けそうでした。

私は読み手としてのプレッシャーが重く、ひたすら原稿を読みました。しかし、修正箇所が多く、何度も原稿がかわってしまって、なかなか覚えることができませんでした。私の家ではあまり声かせません、なのでヒソヒソ声で練習をしました。頭から原稿を覚えなければいけないということが離れず、イライラしてしまい両親にあたったり、上手いかわなく嘆いたこともありました。

私がこうまでして全国へいきたかったのは、プロジェクト発表の題目であるサツマイモで町おこしをして、邑南町を全国の人に知ってもらいたかったからです。

最後に、今まで応援してくださった矢上高校の校長先生をはじめとする教職員の先生方、役場、保育所、小学校、企業、施設および農家の地域の方々や新聞記者さん、家族、バドミントン部の顧問の大峠先生、福田先生、佐々岡素子さん、椿純一君、皆さんありがとうございました。今までの活動実績をもとに、私は卒業後も、ふるさと邑南町に残り地域を守り続けることに挑戦します。



第28回日本学校農業クラブ中国ブロック連盟大会に引率して 櫻井英也

8月7日から8日、山口県柳井市で行われた中国ブロック大会に本校の県代表の植田あかねさんと泉原 理さん、佐々岡素子さん、椿純一君を引率し、意見発表会とプロジェクト発表会に参加しました。

まず、意見発表会では、流石に各県の代表という発表が多く、特に発表の仕方では原稿を自分のものにして聴衆に訴えるものが多く印象的でした。

プロジェクト発表会では、取り組みに大差は無いようにおもえましたが、プレゼンの仕方においていかに自分たちの言いたいことを伝えるかの工夫によって明暗がわかれたように思いました。本校の代表者は、いずれも最優秀賞に食い込むことはできなかったのですが、今回の経験を踏まえて来年度もまた頑張っ取り組ませたいと思います。

発表生徒の皆さん、本当にご苦労さまでした。

本校の名物研究、「サツマイモ・プロジェクト」の指導者のコメントです。

サツマイモで町おこし(Ⅳ) 福田豊

農業クラブのプロジェクトチームは、サツマイモを架け橋として、農業の楽しさを伝える活動を通じて、農業支援、農業の発展に貢献し、併せて、福祉施設の支援活動で、雇用の創出ができる様な活動を目指して、実践してきました。

メンバーである泉原理さん、佐々岡素子さん、椿純一君はバドミントン部との文武両道の活躍をしています。農業クラブの全国大会出場を夢みて、中国大会は二年連続出場、全国地質教育学会では、優秀発表賞をいただきました。今年度の柳井市(山口県)では、もうこれ以上頑張ることができない程努力し、堂々とした最高の発表で、私もうれし涙を流しました。全国大会出場の夢は果たせませんでした。一緒に実践・研究できたことは、私にとっても大切な宝となりました。

地域の方々にも暖かくご支援をいただきましたことを、こころより御礼申し上げます。

「先進地研修」を終えて 植田あかね(2年生)

私は、7月22日から8月6日まで、長野県の川上村で「高冷地野菜」の栽培を研修しに行きました。

家族と2週間も会えない生活で、すごく悲しくて初日は泣いていました。家族に会えないことがこんなにつらいものだとは全然わかりませんでした。

しかし、2日目から最終日までホームシックはほとんど消えました。なぜなら、忙しくて家族のことを考えるヒマがなかったからです。私の1日は、次のとおりです。朝4時に起床、5時からレタスの収穫、収穫終了後畑の除草や出荷用の箱づくりで午前は終了です。

昼休憩は1時間半ありますが、私は昼食の後は疲れて睡眠を取っていました。午後は除草やレタスやハクサイの苗植えをしたりして、本当に疲れました。めんどくさいと思ったり、また何でこんなことやっているのだろう?と自分に哲学的な自問自答をする日々でした。そんなことを考えながら午後の作業は終わりました。そして、18時からご飯の準備をしました。毎日、レタスやキャベツとか野菜の量が異常な程、沢山食卓に盛られます。でも、食べるとすごくおいしくて、レタスもシャキシャキしていて新鮮でした。今までたべてきたレタスの中では一番おいしかったです。本当に驚きまし

た。

研修を終えて今思い起こすと、一日一日がハードでした
が得るものも多かったと思っています。早寝早起きの習慣
や、良い食生活も身につきました。そして何よりも、家族
や周りの友達の良さとかを改めて実感できました。その体
験のおかげで、私の進路ももう一度見直すことができた
と思います。

本当に良い体験、良い思い出になりました。



レタス収穫作業中の植田
さん。
さすが、規模が大きいで
すね。

学校歳時記

■ もっと知ってネ、産業技術科を！！

産業技術科の体験入学が7月31日に実施されました。
中学3年生が71人参加しました。来年待っていますよ。



カワイー！ バックフォアの運転ができた！

■ 「邑南町進出企業見学会」

7月25日(金)、2・3年生希望者20名が8社を見学。



■ だいま、学園祭準備真っ最中で～す。

8月29日(金)学園祭1日目、30日(土)学園祭2日目、
31日(日)体育祭(9:05～15:30)のためにクラスなど係
で、楽しくも知恵を絞り、団結して準備中です。

これらの成果が発表の場で実ると信じてま～す。

みんな
で相談中



ついでに
お楽しみ



行事予定

- 9月29日(月) 3年生中間考査始まる。
- 30日(火) 1・2年生中間考査始まる。
- 10月1日(水) 代休
- 10月3日(金) 中間考査 最終日
- 10月4日(土) 60周年記念式典

学校訪問記 「メダカの学校」

本校の玄関に「メダカの学校」があり
ます。その訪問記録です。

- ・創立 平成19年春
- ・校長 佐藤仁信(担当 物理)
- ・創立当時生徒数 約200匹
(当時の生徒は、渡辺 卒業生会長よ
り寄贈された、クロメダカ。現在2世メ
ダカです。)
- ・転校生 ヒメダカ 約20匹。
- ・現在の学校は、水槽に熱帯魚(グッピー)、

メダカの発砲スチロールの「メダカの幼稚
園」にメダカの卵があります。全体は現在
昇格し、「水族館」になりました。

・「館長(元校長)のコメント」
地域の方がたから、藻や糞などいろいろと
ご援助を頂き、水族館経営のご協力に感謝
しております。生徒・職員には癒しと情操
教育に寄与し、学校を訪れるかたには、矢
上高校の暖かさを伝えています。お疲れの
折には、矢上高校に出かけて、メダカを眺
められてはいかがでしょうか？！

